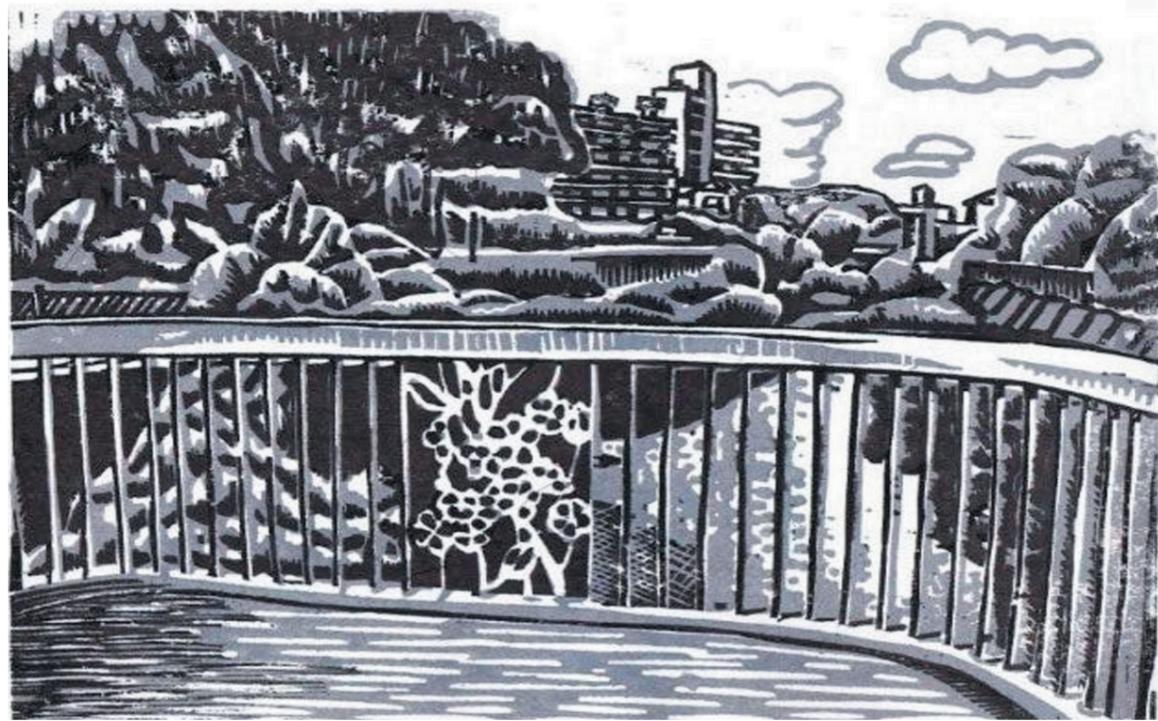


いたちかわらばん

通刊43号 鮠川・狹川 / 川原番・瓦版 **08 秋号**



【版画 宗森英夫】

（「花ノ木橋」橋上より上流を望む）

どんぐり (団栗)

昨年の秋、「栄区どんぐり運動」が行われた事を憶えてられるでしょうか。目標一万个を大きく上回る五万一千二百七個が集まったそうです。種植えされたどんぐりは、今どのくらいに成長しているのでしょうか。いたち川沿いでは多くのどんぐりの木が見られます。冬にも葉をつけているシラカシ、アカガシ、アラカシ、スゲジイ（別名椎の木）、マテバシイ、冬には葉の落ちるクヌギ、コナラなどです。

これらの木を上流から探していくと横浜自然観察の森の自然観察センター前から観察小屋にかけてはスゲジイがあり、十一月の初めには三角形の犬の歯に似た実（椎の実）を落とします。この実は食用できます。

白山橋から神戸橋にかけてはシラカシ、アラカシが川を覆うように繁り、沢山の実を落とします。尾月橋から青葉橋にかけての右岸と本郷橋から桂橋にかけての右岸にはクヌギ、コナラが多く見られます。海里橋近くの警察学校の敷地からはマテバシイが川に向かって枝を伸ばし大ぶりの実を落とします。いたち川から一キロ程離れています。矢沢堀小川アメリニイを通り、階段を上がり、ゆうもや緑道を歩いてイトーヨーカドー隣の桂山公園に行くとクヌギ、コナラ、シラカシ、アラカシ、スゲジイと、どんぐりの木が集まっています。十月頃から実を落とします。特にスゲジイの二本は大木で見事な三角形の実を十月末頃から落とします。

秋の一日、図鑑片手にどんぐり探しも楽しいものです。

(Y・F)

いたち川知り隊 パート2 隊員募集！



～いたち川に来る渡り鳥や冬の植物を観察しながら、てくてく歩こう！～

日時：平成20年12月6日(土)10時～12時 ※雨天中止

コース：扇橋の水辺(上郷六反町公園隣り)～上郷市民の森

※上郷市民の森で解散。上郷市民の森で自由に昼食をとることができます。

対象：栄区在学・在住の小学生の親子20組、40人(保護者1人につき子ども3名まで可)

◎応募方法(詳細は応募はがき付のチラシをご覧ください。)

チラシについている応募はがきに必要事項(住所・氏名・学年・電話番号)を記入して、ハガキかFAXまたはEメールで下記へ申込みください。11月17日(月)必着(応募多数の場合は抽選)

応募はがき付のチラシ配布先

区役所、公会堂、地区センター、コミュニティハウス、さかえ区民活動センター

※栄区ホームページからもダウンロードできます。

【問い合わせ先・申込先】

栄区役所地域振興課生涯学習支援係 TEL 894-8396 FAX 895-6990

Eメール sa-chishin@city.yokohama.jp

「身近なみどりを育むシンポジウム」及び「体験！緑地管理活動」を開催

1 シンポジウム・講演「感じる力と森づくり」

森をまもる活動を行っている人たちの話の中から、「身近なみどり」を感じてみませんか？。

日時：平成20年10月26日(日)14時～16時(13時30分開場)

会場：栄区役所4階 8・9号会議室

基調講演：浜田 久美子(ライター)

座談会：緑地管理団体

定員：120名(応募者多数の場合は抽選、参加不可の場合のみ連絡)



“みどりのライター 浜田さん”

2 体験！緑地管理活動 緑地管理団体の活動を一緒に体験してみませんか？

(第1回)平成20年11月9日(日)・栄さとやまもりの会(瀬上市民の森)

(第2回)平成20年11月22日(土)・荒井沢市民の森愛護会(同市民の森)

(第3回)平成20年11月23日(日)・本郷ふじやま公園運営委員会(同公園)

詳細は下記にお問い合わせください。

◎ 応募方法 ハガキかFAXまたはEメールで

「①シンポジウム、②体験活動(参加希望回)申込み」(いずれか一方の申込み可)の旨と参加者全員の住所・氏名・電話番号を下記へ。10月16日(木)必着。

【問い合わせ先・申込先】

栄区役所区政推進課企画調整係(所在地、TEL、FAXは下記をご覧ください)

Eメール sa-mizumidori@city.yokohama.jp

発行年月
2008年9月

通刊43号

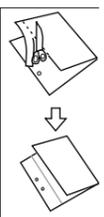
発行：狹川IOTASUKE隊(いたちがわおたすけたい)

OTASUKE隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
 TEL 045-894-8161 FAX 045-895-2260

栄土木事務所下水道・公園係 〒247-0007 横浜市栄区小管ヶ谷1-6-1
 TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421
 (お便り・お問い合わせは こちらまで)

切り取り線

この部分を切り取ってファイルにすると便利です



いたち川知り隊 (パート 1)

三つのモットー

1. いろいろな発見をしよう！
2. たくさんのお友達をつくろう！
3. けがをしないように気をつけて、水分補給も忘れずに！

いたち川知り隊」(パート 1) は小学校 1 年生～6 年生を対象とした多数の応募者の中から 31 名が選ばれた。隊員の他 17 名の保護者と応援の幼児 4 名も加わったので総勢は 52 名になった。

7 月 31 日 (木)、この日は連日の猛暑が少しだけ影をひそめて晴れているのにあまり暑くなく、風もあって過ごしやすい天気だった。本郷小学校裏手にあたる「扇橋の水辺」に朝 8 時 40 分に集合した。

先ず、全体に関わるオリエンテーションを受けてから、1 班約 10 名の 3 班に分かれて「いたち川の魚」「いたち川の植物」「いたち川の水質調査」の 3 項目をテーマとする活動に取り組んだ。サポートするスタッフは、いたち川 OTASUKE 隊員 8 名、栄区役所担当者 4 名、環境科学研究所所員 2 名の計 14 名である。時間割としては、夫々の項目を 40 分づつで行うことにして、(9:10～9:50)(10:00～10:40)(10:50～11:30)に区切った。隊員たちは 3 つの項目を次々と学んでいくのだが、あっと言う間に時間が過ぎて 11 時半になってしまった。全体のまとめを行って 11:45 に解散した。以下、項目ごとにその概要を示す。

＜いたち川の魚＞

稲荷橋寄りの支川は大きな木々の木陰で水温も 23℃と低くて涼しい水遊びとなった。

準備として靴下を脱ぎ、ズボンの裾を捲り上げてから、与えられた網を持って川の中を歩く。こんなに大勢でじゃぶじゃぶと水を掻き分けて歩き回っている割りに魚が沢山獲れたのは環境科学研究所の人達の準備と要領の良さに負うところが大きい。

獲れた魚は、アブラハヤ、ヨシノボリ、オイカワ、メダカ、ドジョウの 5 種類とエビ類のテナガエビ、ザリガニで、透明の水槽に入れて観察し、種類ごとの特徴やオス・メスの区別などについて説明を受けた。魚以外の水中生物のサワガニ、ヤンマのヤゴ、ガガンボ、オナシカワゲラ、コガタシマトビゲラについても同じ



水質の検査は科学そのものです

様に観察した。

応援の幼児たちはお母さんと手をつないで川の中で遊んでいた。お母さんたちにとってもいたち川での水遊びの安全性が把握されたのではなかっただろうか。

＜いたち川の植物＞

あらかじめ事前に調査して撮影した草花 38 種類をプリントした写真帖を手にして、矢沢堀小川アメニティ入り口から旧鎌倉街道沿いの道を上流に向けて歩き稲荷森水辺の東屋で小休憩してからリターンした。

水辺のクレソンが食べられることを聞いて恐る恐るそっと食べてみる子がいた。青ダモが野球のバットの材料になる木だという説明に対してすかさず“バットの材料は金属だよ！”とまぜっかえす声があがる。

この時期だから、咲いている花は少ないが斜面に大きくて見事な百合の花数本が見下ろすようにして咲いていた。タマアジサイは外国に渡って西洋アジサイになったこと。シオデは芽をみそ汁に入れて食べられること。アマチャヅルは干してお茶がわりにされたこと。カラムシはその繊維が絹織物のタテ糸が絹なのに対してヨコ糸として織られたこと。イタドリはその芽は食べられるが強い繊維が糸として利用されたこと。朝鮮アサガオは昔、麻酔薬の原料だったこと、などの説明を聞いたり、標本テキストを見せてもらいながら押し葉の作り方を教わったりして時間いっぱい楽しんだ。

＜いたち川の水質調査＞

この項目はビーカーや温度計などの器具や試薬を使ったりするのでこれらを木陰に並べた机に準備した。

バケツにいたち川本川の水を汲んできて、それを各隊員に渡しであるビーカーに取り分ける。温度計で温度を測って記録する。においはどうか嗅いでみる。にごりはどうかビーカーを透かしてみる。リトマス試験紙を浸して色の变化から PH 値を調べて記録する。酸性、アルカリ性、中性の区別を教わる。更に変化の度合いを調べるために酢やコーラを入れて数値の違いを見る。

水中でパックの口紐を解いて水を吸い込ませて色調变化から COD 値を知るパックテストは結構難しい。高学年と低学年では作業の進捗度が異なるのでスタッフがさりげなく支援する。いたち川の水は綺麗なため PH 値は中性なのだが、水温が高かったせいで COD の値が意外にも少し高かった。

反省点のいくつかを記載すると

- 参加者に内容を知らせるために、全体の行動を各班に分けて描いた大きなボードを掲示する必要がある。
- 当日使った A-4 サイズの筆記板は低学年生には大きくて扱いにくい。B-5 サイズ位のハンデいな筆記板が欲しいと思った。
- 以前、いたち川で 4～5 人の子供たちが履いているサンダルやゴム草履を上流に投げて、それが流れ下ってくる速さを競って遊んでいるのを見たことがある。それを真似て、笹舟のようなものを作らせて、流れに浮かべるようなゲームも楽しいかもしれない。
- 見るのが葉っぱだけではつまらない。花や実の多い時期にも観察会をやりたい。また、もう少し時間を掛けて、見るだけでなく採取して観察させることも必要ではないか。
- 書くことが多過ぎる。 時間配分も含めて内容が盛り沢山過ぎたように思える。
- 低学年と高学年にグループ分けした方がよかった。例えば、温度計の目盛りを読めない子もいたが所詮 1、2 年生には無理なことだろう。
- 10 人に対して一遍に説明～演技させるのはムリのような。もう少し少人数に分けて説明し、操作させる方がよかった。(ピンテール)



川へ水を汲みに行ってきた～す



植物について勉強しています



川の周辺にある沢山の植物を訪ねて



さあ、どんな魚がいるのかなー



なにが獲れたの？